

ヨットの楽しさがすべてわかる、待望のビギナー向け入門マニュアル!

セーリングボート 教書

人生を彩る
セーリングボートの
魅力

快風、 快走、 海日和!

それそれライフ1 夫婦でゼロからコツコツと。

250万円で始めるヨットライフ

6

それそれライフ2 昔も今も続くヨットの絆

旧き朋輩とのクルージング

12

それそれライフ3 帆走るだけがヨットじゃない!

出会い、集う、豊かなクラブライフ

18

それそれライフ4 津々浦々を訪ねるヨットの旅

シングルハンドで日本一周

24

それそれライフ5 小舟で知る素晴らしい世界

悠々自適な人生のよき相棒

32

39 HOW TO SAILING

BASIC LESSON

ヨットの基本構造 / 風上に走る / 風下に走る / タッキング / スピネーカー・ラン / 風向・風速 / セール・トリムの基本 / 海上のルール / ヨットの係留方法 / アンカリング

40

PRACTICAL LESSON

ウェア・ギア / ロープワーク / ヨットの構築 / 出港～セーリング～帰港の流れ / ナビゲーション / 気象予測と荒天走航 / ヨットのメンテナンス

65

95 SAILBOAT BUYER'S GUIDE

憧れのヨットを手に入れるまで

ヨット購入ガイド

ヨットに必要な資格と法規	96
ヨット購入時にかかる費用	97
ヨットのタイプと選び方	98
ビギナーにオススメの セーリングクルーザー14選	100
雲乃さやかがナビゲート! マリーナってどんなところ? 東京夢の島マリーナ / West Cove西浦マリーナ	114

COLUMN

ときにはレースも楽しんで 西村一広	38
ヨットでどこまで行けますか? 高槻和宏	64
ヨットで世界一周は夢じゃない 茂木春菜	94
カスタム建造は“こだわり”と“想い” 林 賢之輔	122

95 GET STARTED SAILING

スクールやマリクラブを活用しよう

ヨットのはじめかた

操船を身に付ける3つの方法	124
ヨットスクール体験レポート 小田急ヨットクラブ / 葉山セーリングカレッジ	126
まずは気軽に参加してみよう! 全国ヨットスクールリスト	136
マリショップ探見! HELLY HANSEN 原宿店	142
広告索引 / 編集後記 / 奥付	144

別冊
ISPA クルーザーズスクール
潜入航海日誌



出港予定は朝7時。油壺ヨットハーバーの桟橋に舳られた(衣笠)には、代表オーナーの鈴木康之さん以下4人の乗組員が揃って、出航準備の真つ最中だ。みなさんヨット歴40年を超えるベテラン、各々がすべてを心得た様子で、肅々と準備が整っていく。

チャートテーブルに座った鈴木さんは、二冊の厚いノートを取り出し、新たなページを開いた。「ログブック(航海記録)です。いまはGPSがあるからいいんだけど、昔は1時間ごとに位置を記録するのが基本でした。そうすれば、万一、船位をロストしたときでも、だいたいの位置がわかるんです」

鈴木さんはじめ(衣笠)グループの中心メンバーは、1960年代から70年代にかけて、ヨットデザイナーの故・渡辺修治さんが所有するヨットに乗り組んだ人たちが構成されている。海軍出身で「提督」の異名をとった渡辺さんの薫陶を受けた、正統派中の正統派だ。

「でも、去年ついにウチのフネも六分儀(天体の高度から自船位置を計算する道具)を降ろしてしまいました。なあ深志。」

「もう、天測やれって言われたって、

できませんよ」

深志と呼ばれた、フル・ビアードの白髭をたくわえた紳士は、鈴木さんよりも10歳年下……とはいえ今年65歳になる鈴木深志さん。

「僕らが渡辺さんのヨットに乗るようになったころ、鈴木(康之)さんは厳しい先輩でね。それが40年経って、この歳になっても、まだ変わらずに10歳年上(笑)」

その関係が幸せなものであることは、ご本人たちの会話や立ち居振る舞いから見取れる。今回のクルージングでも艇長は鈴木さん、深志さんは会計など実務を取り仕切るパーサー役を務める。

otoo

ヨーグルトとバナナで朝食をとり、後片付けを終えりと出港。

油壺湾は天然の良港として知られる細長い入江で、そのドン突きから湾口に向かいながら、メインセーラーを展開する。天気は上々で海も穏やかなのだが、風がない。フーリング仕様のジブを開いても、エンジンを止めればダウンと垂れてしまう。エンジンをかけたまま、機帆走で沖を目指す。

この日の目的地は、相模湾を横断

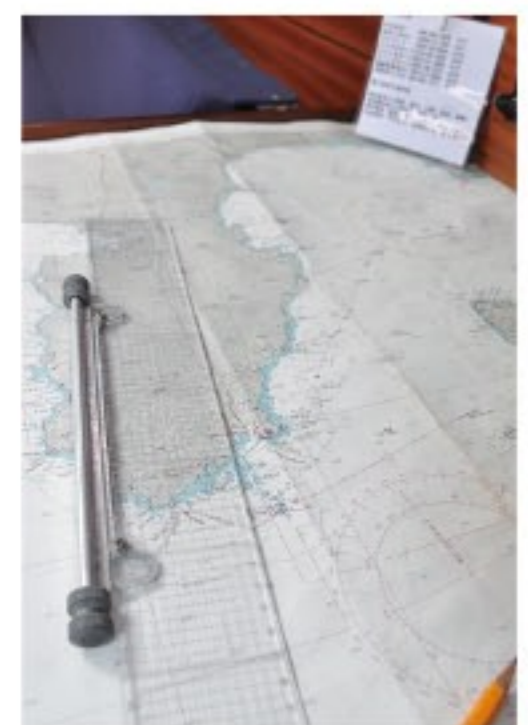
それぞれのヨットライフ 2

昔も今も続く
ヨットの絆

旧き朋輩との
クルージング

バース(寝台)やギャレー(台所)などの居住設備を備えるセーリングクルーザーは、船内で寝泊まりしながら旅をすることができる。生活の一切をヨットに持ち込み、ときには嵐と闘いながら目的地をめざすクルージングには、陸上の旅では決して味わえない魅力がある。40年以上にわたって外洋クルージングを楽しんできた、ベテラングループのヨットにお邪魔。

【文・写真】水野一彦



(右)衣笠グループのメンバーは約25人。そのうち、代表オーナーの鈴木康之さん(左から2人目)ほか10名がオーナーとして名を連ねる共同所有艇だ。この日のクルージングには4人が乗船
(左)GPSがあっても、海図を使ったチャートワークを疎かにしないのが(衣笠)の主義。ローラーを取りつけスライドさせやすくした定規は自作だそう



人生を彩るセーリングの魅力 快風、快走、海日和!

WIND 風軸

ヨットは風上に向かって走ることができませんが、真正面からの風に向かって進むわけではありませんが、個々のヨットの性能（上り性能）によって違いますが、だいたい風上に対して45度、上り性能のよいヨットで30度くらいが限界でしょう。

それ以上風上に向かおうとすると、風を受けているセールの真側に風が入り、失速してしまいます。この、風上側の帆走できない範囲を、ノーセールゾーンと呼びます。セーラーを一杯引き込み、上り性能の限界ぎりぎりのところで走っている状態が、クローズホールドです。41のページで説明した帆走時のベクトルの図で言うと、横方向への力が大きくなるので、ヒールは大きくなります。

いっぽう、風を真横（アビーム）から受け、風上に対して90度方向に走れることを、ビームリーチと呼びます。ビームリーチ周辺は、ヨットにとって一番効率よく、スピードが出る走り方。風下に走

るほうが速いような気がしますが、スピードが遅くなると今度は前から風を受けるし、風もきれいに流れないので、効率が悪くなります。ビームリーチなら、セーラーに当たる風を効率よく使い、ハルを細くして水中の抵抗を小さくすれば、風のスピードを超えることも可能と言われています。

ビームリーチとクローズホールドの間をクローズリーチングゾーン、あるいは単にクローズリーチと呼びます。そして、より風上に向かうように舵の向きを変えることをヘディング・アップ、より風下に向かうように向きを変えることをベアリング・オフと言います。

ちなみに、クルージングヨットの場合は一般的に、舵を離すとヘディング・アップするようにできています。水面下の抵抗中心に対してセーラーの風圧中心がやや後ろにくるように設計して、バウを風上に向けようとする性質を持たせるのが、昔ながらの考え方なんです。なぜなら、舵を離れたときに風下に向かうと、ノーコントロールでどんどん走ってしまい危険だから。風上に向かえば、ノーセールゾーンに入り止まってくれます。この風上に向かう性質を、ウェザーヘルムと言います。

BASIC LESSON

2

風軸に対して
45度
30度までが限界

風上に走る

Close-reaching zone クローズリーチング・ゾーン

クローズホールドとビームリーチとの間の区域

Heading up
ヘディング・アップ
風上にバウを向ける

Bearing off
ベアリング・オフ
風下にバウを向ける

Port tack
ポートタック
風を左舷から受けて走っている状態

風を真横から受けている状態

Beam-reach
ビームリーチ
(ウインド・アビーム)

Starboard tack
スターボードタック
風を右舷から受けて走っている状態

風上側の帆走
できない範囲

No-sail zone
ノーセール・ゾーン

これ以上は風上
に走れない状態

Close-hauled
クローズホールド

Close-reaching zone
クローズリーチング・ゾーン

クローズホールドとビームリーチとの間の区域

Lee way リーウェイ

風上に走っているヨットは、風によって横方向に押される影響をゼロにはできないため、少しずつ風下側（リー側）にズレながら走ることになる。このズレがリーウェイで、遠くの目的地に向かうときや、レースでブイを回航するときなどにはリーウェイを計算に入れてコースを取る必要がある。



(上)使用するスワン38は定員14名。スクールは5~8名乗船で行うことが多い
(左)今回インストラクターを務めた中尾和嘉さん(中央)は、レーザー級の全日本選手権を制したこともあるディンギーのエキスパートで、13年前に葉山セーリングカレッジを設立した。左が今回、一緒にスクールに参加した青藤佳利さん



クラブハウスでのオリエンテーション。ヨットの基本的な知識について、中尾さんや、海に出る際の注意事項などの説明があるが、服装も文房具も揃っている。

川根・葉山にある「葉山セーリングカレッジ」だ。
葉山セーリングカレッジでは、ヨットだけでなく、シーカヤックやパドルボードなど幅広い海の遊びについて、スクールや会員制クラブを運営している。
セーリングクルーザーのスクールに関しては、初心者を対象にした「スタートヨットディング」というコースがある。次のステップに進みたい場合は、クラブメンバー対象に「コンピテントクルー」「フェイスリッパー」というコースがあり、希望者はISPA国際ライセンスも取得できる。



38フィートのセーリングクルーザーを、インストラクターの指導を受けながら操船。多少なりとも経験があれば、かなり主体的に動かさせてくれる



「スタートヨットディングは、そんなにむずかしいカリキュラムはありませぬ。それよりも、とにかく楽しんでヨットに乗ってもらえればと思っただけなんです」
この日のインストラクターを務める、代表の中尾和嘉さんの最初のひと言に、こちらの気持ちもスーッと軽くなる。30分ほどのオリエンテーションのあと、車で係留地に移動。
「おお、このヨットは……」
ピカピカの新鮮ではないが、それでも存在感あふりの上品なたたずまひは、中尾さんに確認するとあっさり、スワンである。ヨット乗りならだれでも(私でさえ)知っている名前。正直、これだけでもけっこう嬉しい。

ヨット未経験の場合、先にディンギースクールを受講してヨットの基礎を学ぶのがお勧めだそうだが、まあディンギーも乗ったことがないわけじゃない(沈ばかりでもうコリゴリ、となつたのは内緒だ)。
今回はこのスタートヨットディングに参加。通常は5~6人の人数が集まったうえで開催されるそうだが、生徒2名体制のスペシャル授業を受けられることになった。



以前乗っていたヨットのマシネはシンクルマタイプで、スタートヨットディングを使うのは初めて。中尾さんに使い方を説明してもらった

もう一人の参加者である青藤さんはレースもたしなむ上級者で、この日は出港時から舵を持つ。私はフェンダーを片づけたらロープをコイルしたり(ボートに乗る機会が多いので、こういう作業は普通にできる)、その作業がひととおり終わると、中尾さんが、ロープがよれにくいフレック(振分けまとも)の方法を教えてくださいました。
セーリングして沖に向かう。耐航性能に定評のある、しっとりしたスワンには少々物足りない風。でも、とにかく海が穏やかなので、平和なセーリングだ。



セールアップ。こみいったクルーワークの手順は覚えていて、言われなくてもマストについたものを「これ引っ張ればいいんだよな…」と半信半疑でハリヤードを引く



セールをまとめているセールタイをはどく段階から、すでにモクモクしている私ミスノ。20年のブランクと体力の衰えは、やはり大きかった?

どーやるんだっけ?(汗)

葉山セーリングカレッジにお邪魔しました



ヨットスクール体験レポート②

メタボおやじのヨット再挑戦

本誌メインライターのみすのは、一応、ヨット経験者。でも、もう20年以上前の話だし、自分でちゃんと操船したのはほんの数回だ(ダメじゃん!)。体力も頭の回転速度もグングン落ちるなか、身に付け損ねたセーリング技術を思い出し、整理し、「陸(おか)ヨット乗り」の汚名を返上すべく、スクールの門を叩くのである。
【文】水野一彦 【写真】宮崎克彦(本誌) 【協力】葉山セーリングカレッジ

初心者ではないけれど



集合は午前9時。クラブハウス1階の受付では、ヨットに乗る前に出船届けを出さなければならない。ヨットのシフトが用意されているのも、初心者にはとてもありがたい。

7人の共同所有とはいえず、私・ミスノは30フィート艇の元オーナーだ。これがハリヤードでこれがクローズホールドで、つてのはわかる。だから、まったくゼロからのスクールは、ちょっと違う。
ただね、当時はなんだか船底掃除ばかりやってたし、セーリングをきちんと教わったことがないから、そのあたりを、できればユルイ雰囲気ですべる機会はないだろうか……という要望で紹介してもらったのが、神奈